

第10回 鶴川中央小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2025年5月19日（月） 9：30～11：20	
開催場所	町田市立鶴川第三小学校 視聴覚室（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	岩永委員、小池委員、沼尻委員、柄澤委員、増田委員、功刀委員、 竹村委員、大隅委員、仲村委員、浅沼委員、山本委員、◎鰭坂委員、 ○高橋委員 （◎会長、○副会長）
	事務局	指導課、教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、 保健給食課、教育センター、防災課
傍聴者	1名	

議事内容（敬称略）

はじめに【学校教育部長挨拶】

学校教育部長 本日は、お忙しい中、新たな学校づくり基本計画推進協議会にご出席いただき、感謝申し上げます。

これまで、2026年4月の鶴川中央小学校開校に向けて、通学路の実踏調査や、校歌校章の制作など、委員の皆様との話し合い、様々な取組みを進めてきた。

今年度は、通学路の安全対策や統合前の児童交流、また、新しい校歌・校章の完成など、皆様とともに取組みを進めていきたいと考えている。

町田の未来の子どもたちによりよい教育環境を作っていくため、これまで以上にスピード感をもって取り組んでいきたいので、皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

1 委員自己紹介・会長副会長選任及び開催日程

新たな学校推進課 （資料1－1説明）
 （資料1－2各委員自己紹介）
 （会長・副会長選任）
 （資料1－3説明）

2 第9回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料2説明）

3 報告事項

（1）鶴川中央小学校 新たな学校づくりに関する取組内容について

新たな学校推進課 （資料3－1説明）

（2）鶴川中央小学校への通学について

学務課 （資料3－2説明）

委員 真光寺の児童が鶴三小まで通う際、実際にどこを通るだろうかと、真光寺の十字路から鶴三小まで歩いてみた。いくつか歩いて、団地センターの太陽の広場

を突っ切る児童がたくさんいるのではと思った。そこは最短コースになっており、鶴川五丁目団地自治会の建物があり、その脇を行くと、歩道橋がある。そこを行くと太陽の広場へ降りられ、太陽の広場を突っ切ると鶴三小へ来る最短コースで、高学年の児童などはこれを見つけてこの道を通るのでは思った。その辺のところを通学路できちっと、ここはダメだとか、そういう指導みたいなものがなされるのかなと思っている。

交通事故はあまり心配していない。鶴川三丁目や鶴川四丁目の中で危ないのは空き家。本当に空き家か空き家でないかがわからない。そして道路側に庭があればいいが、庭が建物の裏側にあるような空き家が結構あるので、引っ張り込まれたら危ないというようなところをチェックしておくことが大事ではないか。通学路を歩いてみるときに、そんなところも目を配るように指導していただけるとありがたい。

新たな学校推進課 今年、いろいろな取組をご報告させていただいたが、1点目の経路のことについては、保護者の方もどこを通るのか、いろいろお考えがあるかと思う。なので、その状況もしっかり注視しながら、安全に通える道を、保護者の方のご意見もふまえながら、学校と一緒に検討していきたいと思っている。

委員 ②番の下り坂の説明があったが、この写真にあるとおり、車が一台停まっている。この道はよく駐車に使われる。歩道の線を引いても、結局児童は外側に回らなくてはいけないということがあるので、線を引くよりも、ちゃんと区切る柵なり、最低ゴムポールを立てていただき、車がこの線の内側に入らないように対策をとっていただけたらというのが希望である。

また、鶴川四丁目の児童が公園の横を通って降りてくる道になるかと思うが、鶴四小の近所から来る子どもたちもいる。ここには信号機ができないということになっているが、交番の前に横断歩道がある。大蔵小の正門のところにも十字路があるが、あそこは全部抜けてくる道が右折左折でどんどん入ってくる。見てみると、かなりの確率で大蔵の駐在がパトカーを学校の前に1台置いて立っている。これは相当効果的だと思う。ここは交番と言いながら駐在がいないので、真光寺の駐在に来てもらい、時間のある限りここを見ていてほしいと思う。どうしても車が加速しながら少しカーブを切ったところに横断歩道があるので、駐在次第だが、見守りの希望を出しておいて欲しいと思う。

委員 車を使う立場では単純に賛成できない。ここのところは交通量が非常に少ない。児童が通うのは朝の通学路だけで、しかも今児童が減っているので、ここにポールを立てたら、例えば朝の仕事に出る時のトラックが交差する時、かえって危ない。現状のままでいいと思う。

あと、警察の問題は、要望として出しておいて、この地域は治安が非常に安定しているので、特に保護者のパトロールが大変効いているので、そういう点で見たら現状のままでいいと思う。

委員 今の件だが、あそこの交番の前のところは、鶴川三丁目の老人会で、登校時間帯に立ちますよという人が既に4名ぐらいいる。毎日でも立つと思う。ただし、条件があ

り、登校時間帯をきっちり何時何分としてほしい。登校が早い児童と遅い児童で1時間も違うとなると、老人会の人たちは難しくなる。

学務課

駐車している車の対策だが、要望ということで町田警察署に伝えていく。鶴川交番前の横断歩道については、昨年度、通学路点検をした際にも同様の話が出ており、その際、町田警察署も一緒に現地に立ち会っている。地域の要望として声があることは、しっかり町田警察署に伝えている。ただ鶴川交番は比較的、人が不在の時間があるのと、交番という性質上、事件・事故があった場合は速やかに現場に急行しなければならないといった事情もあり、日常的に立つことが難しいという話は警察から聞いている。ただ要望としては何度か伝えている。

委員

先ほどの説明で、交通量が少ないというのがあったが、7時くらいの時間帯は、渋滞がひどい。駅に向かう側の渋滞があるので、交差点をまたいで車が停車するという状態が断続的に起こる時間帯ではあると思う。つまり、死角ができ、見通しが悪くなる。何人くらいの児童がここを歩いてあの横断歩道を渡るのかわからないが、ただあの横断歩道を渡るときに、車はある程度止まっていて、信号から渡ってさらに抜けていく。また、駅から来る車も通り、駅に向かう車に対しても渋滞はひどいので、そのような状況はあるというのを想定はしておいていただきたい。やはり子どもなので、どうしても左右の確認を怠るところはあると思う。

(3) 新たな学校づくりに伴う小学校サポートルーム拠点校変更及び特別支援学級について

教育センター (資料3-3説明)

委員

サポートルームについて確認だが、今、鶴四小だと鶴二小から週2日来てサポート授業をしていると思うが、新たな学校になると3校が担当校になり、授業日が減ってしまうことはあるのか。

教育センター

児童一人あたり週1回2時間実施で、こちらの方は減らさない。今通っている児童に影響が出ないように実施する予定である。

委員

今、鶴三小では先生が週3でいると思うが、拠点校でなくなると減ってしまうのか。鶴川中央小になっても週3日はいてもらえるのか。

会長

今は鶴三小でサポートを受けている児童がたくさんいるのでそうしているが、たとえば三輪小の方が多くなったら三輪小の方にたくさん教員が行くというように、子どもたちが困らないようにする。子どもの人数によって配置される先生が増える可能性があるので、先生が増えるというところに行ける先生が増える。どの学校も同じように条件を満たして教育することができるので、そこは心配しなくても大丈夫だと思う。

委員

サポートルームの開設の時間ということではなくて、駆け込み寺というか、今まで鶴三小の子はサポートルームの先生がいたので駆け込めたのに、いなくなってしまふから、ちょこちょこ行けなくなることが心配。

会長

確かに拠点校ではなくなるので、いつも先生がいるわけではないが、特別支援のあり方を学校全体で考えて、空いているときの先生が対応するとか、専門の先生が

いるとか、例えばスクールカウンセラーがいるとか、養護の先生がいるとか、他にもいろいろ対応ができると思うので、子ども達が心配ないような体制を学校で作っていききたい。

（４）校歌・校章の制作について

新たな学校推進課 （資料３－４説明）

委員 参考として聞いていただきたい。

鶴四小で一番好きな場所は国土舘大学前のバス停に行くところの一番上のところのカーブミラーのあるところだった。なぜ好きかというと、そこからの眺めがすごくいい。丹沢の山並みが見えて、左端の方に大山が見えて右の方に富士山が見えて、すごくいいところ。それで特に大山が見えるっていうのが好き。忠生小学校の校歌に、「そびえる大山影清く」というのがある。それで以前、同期会を開いたが、校歌の話が出て「そびえる大山影清く」というのはなぜ「清く」なのかとの話になった。私は「大山というのは信仰の山なのだよ。五合目に阿夫利神社があって、雨降りの神様で江戸時代はものすごい信仰でそこへ登る人が多く、そこに続く道を大山街道と言い、その大山街道の一里塚が木曽の観音様のところにある。もう一つ先のところに小野神社のそばのところにも一里塚があった。そして小野寺の宿のところの小島資料館の向かい側は門屋という屋号で昔は宿屋だった。そして木曽の観音様の一里塚のあるところにも同じ屋号の門屋という家があって、そこも宿屋だった。なぜ宿屋だったのかといえ、要するに大山へお参りする人たちがそこへ泊まった宿屋だった。だから町田というのは特に忠生小だとか小野路の方だとかいうのは大山とものすごい結びの強い地域なんだ」という話をした。

ですからこの校歌ができた時に、校歌に込められた意味合いを子どもや保護者や教員たちによくわかるように説明をすることが大事だと思っている。

（５）２０２５年度における学校の取組について

会長 （資料３－５説明）

委員 児童の交流はもちろんだが、教員の人事についてもいろいろ配慮をお願いしたい。

（６）町田市新たな学校づくり推進計画の一部修正について

新たな学校推進課 （資料３－６説明）

委員 単学級化・小規模化の進展のところだが、小学校は全学年単学級だったら学校として６学級になる。中学校は９学級未満としているが、中学校の９学級とは１学年３学級ということで、なぜ９学級なのかが疑問である。

小学校だと学級担任が一人ずつ配置されるわけだが、中学校の教員配置は違う。中学校は６学級の学校だと配置される教員は各教科１名ずつ、でも技術か家庭科が分かれている。だから６学級だとすべての教科の先生が１人ずつだとなる。中学校の学級数の何学級以下になったら深刻だということ、小学校の深刻度というのは全然

違うと思っている。

小学校ではベテランの教員が学年2学級の学校で転勤になるよりも、1学級の学校の方がずっといいと言う。一番大変なのは2学級の学校。なぜ大変かというと、ベテランの先生は2学級の学校に行くと新卒の先生と組まれて、一人で二人分の仕事をしなくてはいけなくなる。1学級の学校ならベテランの先生であれば何回もその学年をやっていてわかっているから、一人で自分の好きなようにやれる。だから1学級の学校はやりやすいと言う。そういうことを考えると、学級数の深刻度というのは小学校と中学校によって違うから、例えば小学校だったらこのくらいになったら統合の対象、中学校だったらこの学級くらいになったらというようなことを十分考えた上で基準を作った方がいいと思う。

委員 小学校の単学級化が進んで、小山田小や大戸小がもう単学級化していると書いてあるのに、基本計画着手年度の変更前の小山田小が2024年で変更後が2026年に伸びている。なぜ伸びているのか。

新たな学校推進課 小山田小と小山田南小はもともとの計画ではすでに着手が始まっている地区だったが、一部地域から請願という形で地域の方の署名に基づいた小山田小学校の統廃合に関するご意見をいただき、それで少し着手が遅れている。

委員 では、つくし野小はなぜ第三期なのか。

新たな学校推進課 つくし野小はもともと南つくし野小と統合する予定だったが、つくし野小の小規模校化が進んでおり、一方で南つくし野小が過大な規模のままであるため、まだ統合は難しいと判断した。この計画書では分かりづらいが、まずは南つくし野小とつくし野小の学区一部を南つくし野小側に移し、つくし野小の適正規模を維持して、統合は先にするよう計画の変更をした。

委員 上の子は別の自治体で育てた。そこは中学校が選択制だが、学区域外から来る子は枠が設けられていた。例えば上限10人とか。その枠から外れたら行けないなど抽選のような制度を取っていた。

昔、鶴二中は8クラスぐらいあった。今は6クラスとか7クラスとかだろうが、とにかく大きい。一方、真光寺中は今2クラスぐらいしかなく、すごい差だ。それを平均的に両校4クラスぐらいにうまくバランスを取ればいいのではないかと思うのだが、そういう施策は検討しなかったのか。

委員 真光寺中と鶴二中の生徒数のアンバランスにはいろいろな事情がある。ものすごく難しいことで、一口では言えないと思う。

委員 選択はできるが、その枠として受け入れ人数の上限は定める。例えば多分今年鶴四小から20人弱ぐらい鶴二中に行っているはずだが、そもそもそれが学区外から受け入れられる人数だとは思っていない。本来だったら真光寺中に行くエリアの子たちが、鶴二中に行ける制度を認めなければいい。

新たな学校推進課 この計画を作るときに、選択を認めないということを検討したということはない。そこは現状の政策のままである。

逆に、統合期に通学区域がどんどん変わっていく。場合によってはそこに住んで

いた子が制度上いくと3年生から4年生にかけて隣の学校が学区変更する関係で隣の子も動かなければならないというようなことが起こり得る状況があった。

例えば鶴三小と鶴四小の統合に合わせて学区域を変更すると、逆に鶴三小の区域から大蔵小や鶴一小に出たりするような児童が出てしまう。その制度を正確に全部やろうとすると、保護者や子どもたちに対して負担が大きくなる。そのため、統合期においては通学先が変わったとしても選択できる幅を持たせようという形で選択肢を与えている。そのため、現状で決められた学区域を必ず守るという施策は、町田市では考えていない。

委員

もう一点、そもそも子どもの人数が減っているのは分かった。それは全国的な話だと思うが、児童の流出もけっこうあるのではと思っている。そこに対しての町田市の検討、この未来がある程度見えている中で、これをどういうふうに阻止していくとかというところは考えていないのか。減っていくことに対してそれを受け入れてというところは考えているけれども、これを止めようというふうな施策は考えていないのか。

新たな学校推進課 町田市自体は今、年少人口がすごく増えている自治体で、政令指定都市を除くと、全国で2、3番ぐらいに、0から14歳児童の流入が増えている自治体になっている。ところが、それを上回って子どもたちの減少があまりにスピードが速く、流入分が相殺されてしまっている状況となっている。

我々も、学校を新しくして、子どもたちの教育環境をよくしたいという取組みを進めているが、現実としてあまりに子どもたちの生まれてくる人数が減りすぎていて、この取組みを並行して行っている。

委員

鶴川地域で見るとどうなのか。

委員

鶴川地域は、流入人口は町田市の中でも多い方になっている。ただし、生まれる子どもは少ないので人口自体は減っている。

これからは参考意見になるが、子育てをするならば、町田が日本で一番子育てをする環境の良い町を作って全国から呼び寄せてしまおう。日本の人口が減っても町田だけが増えていくということがあり得るぐらいの町を作ればいだろうというふうに考えている。

当面のライバルは千葉県の自治体だが、そこも町田市がやっていることと中身は変わらない。しかし、向こうは宣伝の仕方がうまい。もう一つは、交通が整備されたのが最近なので、新路線が引けたときに、各駅に保育所を駅に隣接して作り、そこへ保育園児を朝預け、それぞれの時間が経ったところで一回りした園バスを使ってそれぞれの保護者の近くの保育園に子どもを再度配送するというをやっている。その辺のサービスは、町田市も小田急の駅ではやっちはいるが、規模が小さくて十分にはできていない。

そういう点ではそれほど心配していないが、この地域の問題で言うと、中学校の問題が心配だ。

鶴二中と真光寺中の基本計画検討着手の目標年度が2030年となっているが、

2030年から統合の準備を始めたとしても、真光寺中がなくなるということが決まっているところに、2030年の鶴川中央小学校の卒業生は行かないだろう。他市でも同じようなことがあったが、2030年の段階で鶴川中央小学校の卒業生が出ると、その子たちが、わざわざ遠い真光寺中まで行くのか。それだったらみんな隣の鶴二中に行ってしまうだろう。だから計画よりも前に、真光寺中が自然廃校になってしまうのではないかとこのことを心配している。そこをもう一度考えて、この地域の新しい小学校、中学校を作っていくことを考えてもらいたい。

委員

鶴二中に電話をかけて要望したことがある。それは、鶴二中の普通教室がどれだけあって、どこまで学級が増えても大丈夫か、受入枠が15人とか20人とかあったとしても、35人とか40人ぐらいまでなら大丈夫じゃないか、それぐらいまで受け入れてほしいと。鶴川中にも言ったことがある。鶴川中はどうして受入枠ゼロなのかと。教科教室型だから増やせないと言うが、それでももっと増やしてほしいと言いつけた。

PTA会長としてできることとしたら、例えば鶴二中へ受入枠を増やしてくださいと要望すること。

鶴川中央小へ1年間通った6年生は、隣に中学校があることがわかっている。1年間でもここまで通えば、隣に中学校があって、このくらいわけなく通える、だったらみんな一緒に学校に行こうと、卒業生の大半が真光寺中に行かないで、鶴二中に行ってしまうのではないかと思う。そうすると、真光寺中は各学年1クラス、あっという間に全部で3クラスになってしまう。2030年度にはもう廃校せざるを得ないということになると予測している。

1学年が30人で、男子と女子に分ければ15人15人ぐらいになる。誰がそんな学校に行くのか。小さな学校でうまくいく学年はいいけれど、うまくいかない学年は悲惨だ。学年1クラスで、クラス替えがないから。そういうことを知っている人は、小さな学校には行かない。

学校統合をせざるをえないと思うから、そういうことも意識しておいて、計画は計画で目安として見ておきながら対応していったほしい。

会長

(閉会のあいさつ)